

濱地外務大臣政務官によるステートメント（仮訳）

モデレーター殿、ありがとうございます。

UNDP 創設 50 周年を祝う記念すべき会合に出席でき、光栄に存じます。

まず、本セッションのテーマに入る前に、日本と UNDP の長きにわたるパートナーシップについて一言触れさせていただければと思います。

日本と UNDP が協力してきたすべての分野や事例を列挙する訳には参りませんが、我々の緊密な関係を示す例を一つだけ紹介するとすれば、人間の安全保障概念の推進が挙げられます。1994 年、UNDP の人間開発報告書は人間の安全保障の概念を提示しましたが、これは、今や、日本の外交政策及び開発協力にとって重要な哲学となっています。

私は、人間の安全保障の重要性は、「人間中心アプローチ」を通じて、国際場裡において広く認識されていると確信しています。持続可能な開発のための 2030 アジェンダは「誰も取り残さない」ことを標榜しております。我々は 2030 アジェンダを実施するために、人間の安全保障の概念に立脚したアプローチが必要と考えます。

UNDP は、十分な役割を期待されています。私は、具体的に UNDP に対する期待を 2 つ述べたいと思います。第 1 に、UNDP は、汚職や脆弱な行政能力への対処を通じ、（途上国の）国内資金の動員を助けるにあたっての豊富な経験を持っています。グッドガバナンスは国内資源を効率的かつ効果的に利用するにあたり、重要な要素になります。

第 2 に、UNDP は、人道と開発の連携を推進するにあたり、重要な役割を担うことができると考えます。このことは、資金の効率的な利用及び長期化した紛争や自然災害を起因とする現実の危機の解決に資するものです。我々は危機に際しては、人道の観点から直ちに行動しなくてはならないことは明らかですが、同時に、避難民及びホストコミュニティの住民や自治体の能力向上のような長期的な開発の観点も不可欠です。人道と開発の連携は、様々な資源の効率的な活用に役立ち、また、より強靱なコミュニティをつくるための鍵となります。

最後に、UNDP との協力の下、2030 アジェンダの実施における課題に取り組む我々の決意を強調して、発言を終えたいと思います。先月、日本の国会は開発協力に対する補正予算を可決しましたが、その中には 2 億 6 7 0 0 万ドルに上る UNDP への拠出も含まれています。この拠出により、51 のプロジェクトが UNDP によって実施予定です。大半のプロジェクトが若年層、女性、子供を対象としたコンポーネントを含んでおり、またこれらは人道と開発の連携についても配慮するものです。我々は、このような協力を通じ、誰一人取り残さない社会のために、UNDP との協力を強化することをお約束します。

ご清聴ありがとうございました。